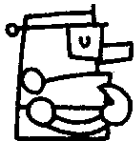




小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /  
人と動物の体 / 理解シート

## おたまじゃくしやカエルの、酸素のとり方を教えて

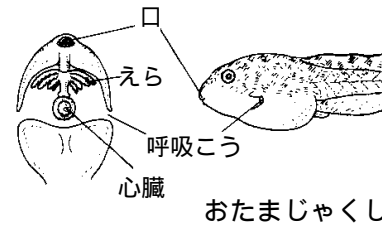


水中でくらすおたまじゃくしは、えらで酸素を取り入れ、  
カエルは肺<sup>はい</sup>で酸素を取り入れているのさ。

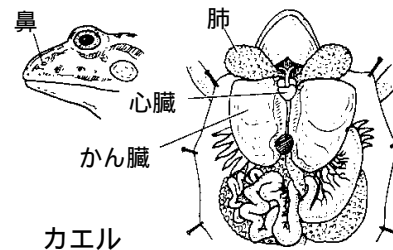
おたまじゃくしは、カエルの子供ですが、水中でくらしているのさ、えらをもっています。卵<sup>たまご</sup>から出たばかりのころ、首のまわりにえりかざりのようについているのが、えらです。やがて、えらは、おたまじゃくしの体内に入ります。

えらは、水にとけた酸素を、体内の血液にとり入れるはたらきをします。

おたまじゃくしが成長して手足がはえそろうところ、しっぽはなくなっていき、目がもり上がり、口が大きくなり、鼻のあなもあいて、鼻や口で息をするようになります。そして、体内のえらはなくなって肺ができ、肺で呼吸するカエルになります。こうなると、早く陸に上がらないと、おぼれ死ぬこともあります。



おたまじゃくし



カエル

### 肺は空気中の酸素を取り入れ、えらは水にとけた酸素を取り入れる

陸にすむ背骨<sup>せぼね</sup>のある動物は、みんな、呼吸<sup>こきゅう</sup>するための肺をもっています。人間もカエルも、息を吸ったりはいたりして、空気中の酸素を吸い、二酸化炭素をはき出しています。肺で、吸いこんだ空気から血液に酸素がとりこまれ、体内でいらなくなった二酸化炭素が血液から出てきます。えらは、空気中ではなく、水にとけた酸素を取りこむこと以外は、肺と同じはたらきをしています。